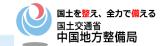
Q: 宇野港宇野地区についてどういう形で利用されているか

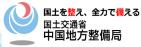


資料4



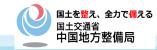
1

Q:将来、宇野港宇野地区がどうなってほしいか





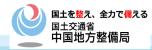
Q: その他のご意見①



● 観光・賑わい面の機能強化について

- 宇野港が目指すべき姿は観光港であるべきで、そのためには宇野港全体を開発する必要あり。
- ▶ 電車で移動されるインバウンド需要をふまえて、宇野駅から宇野港までの一体と思えるようなデザインが必要。
- 駅と港を分断する道路を観光客が影響なく移動できるようにする。
- 玉野市ならではの素材を活かしたストーリー性あるコンテンツの拡充。
- ▶ 直島と協力して、現代アートの聖地をつくる。
- ▶ 瀬戸内海と本州を繋ぐ "ゲートウェイ" として、世界中から訪れる人々に快適性や利便性を提供できること (アートサイト直島の門前町的展開) を第一に考える。
- ▶ 観光地としての宇野港の魅力アップを図る上で、明確な食の名物が必要。
- ▶ 宇野・直島の海外での知名度に比較して、国内での知名度が低い。これを改善する必要がある。
- ▶ 海外からの観光客が多いなか、外国語の看板や案内も設置されておらず歓迎している印象がない。改善が必要。
- ▶ 滞在箇所の拡大(カフェ、瀬戸芸と連動したまものづくりなどの体験施設)。
- ▶ 朝や夜間の観光素材開発(港のライトアップイベント、朝市の開催など)。
- フェリーや旅客船から見た宇野港の街並みを、他にない独特な美しい風景にしていく。
- ▶ 大きな「レガシー」よりも、毎日でも管理が行き届いている「港」が重要。
- ▶ 宿泊施設(ホテル、グランピング施設)
- ▶ 飲食店、食事とお土産を購入できるシンボリックな直売所
- ▶ 魅力ある店舗、色々な人が買い物する店舗(ユニクロ等)
- ▶ 「宇高航路の街」としてフェリー・連絡橋の遺構、モニュメント等
- > 観光船の運航

Q: その他のご意見②



● 周辺地区との連携の強化について

- ものづくりの街として、工場見学などを考える。
- ▶ 周辺の店舗、施設への案内の充実により、通過点ではなく、 **首の地の1つとして観光客が立ち寄り、周辺地域が賑わうような取り組み**があってほしい。
- ▶ 単に「港」だけでなく、その周辺地区の回遊性、活性化もあわせて考える。
- ▶ クルーズ船の受入についても、港周辺にとどまらずクルーズ客の行動範囲・人数・嗜好を想定しマーケティングに基づく戦略的かつ継続性のある手法に転換し、地域経済効果や持続的な地域の発展につなげる。

まちづくりの進め方について

- ➤ そこに「住む」ひと、地域生活者の意見を入れて、確認をしながら整備を進める。
- ▶ 住民の声を集めて、どのような街にしたいかのコンセプトを決定し、優秀な芸術家の卵を集め、互いに利用あるかたちで整備を進める。
- ▶ まずは、利用者の意識・行動・ニーズをデジタルデーやアンケートにより丁寧に調査(マーケットイン)し、その結果に基づいて施策を構想すべき。
- ▶ 地域のDMOを中心として地域・広域の関係者が協力する新たな体制づくりと必要な予算の確保。
- ▶ 地元の若年層が、地域に誇りを持てていない。開発にあたっては、地元の活性化につながる点も重視すべき。
- ▶ 県と市が積極的に協力し、縦割りではない開発が実現すること。

● アクセス機能の強化、交通サービスの強化について

- ▶ 船舶チケットのデジタル化、列車と船舶の接続改善。
- ⇒ 安価なレンタカーなどが手軽に利用できる仕組みをつくり市内回遊を促す。
- ★ 無料の駐車場、立体駐車場、ヨットの係留場所